

令和元年6月7日

石巻市議会議員 木村 忠良 殿

石巻市議会  
無会派 木村 忠良

## 調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

### 記

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1 調査者氏名         | 木村 忠良  |
| 2 調査期間          | 令和元年5月14日から<br>令和元年5月17日まで 4日間   |
| 3 調査地<br>及び調査内容 | (1) 香川県丸亀市<br>・まる育サポートについて<br><br>(2) 徳島県吉野川市<br>・花で彩る吉野川市の未来について<br><br>(3) 高知県室戸市<br>・廃校利用（むろと廃校水族館）について |

## 4 目 的

### (1) 香川県丸亀市

#### ・まる育サポートについて

丸亀市は、丸亀市に住むすべての子どもが健やかに成長し、安心して地域で子育てができるような環境づくりの取組として、まる育サポート事業を推進している。当該事業は、妊娠期をはじめ子どもが0歳から18歳になるまでの子育て期を「ハッピーサポート丸亀」と「あだあじお」がしっかりと連携しながら支援していく総合相談窓口であり、妊娠届出時から就学まで、地区担当保健師が継続してサポートを行うとともに、臨床心理士や教員・保育士経験者などの子育て支援の専門相談員が、子育てのあらゆる問題や心配事の相談を受け付け、子どもの年齢や状況に合わせてきめ細かなサポートを行っている。

本市においては、子どもをめぐる問題は多様化・複雑化している状況にあり、また、各家庭においては、核家族の進行と震災後の地域コミュニティの崩壊が深刻な課題となっており、不安やストレスを抱えながら子育てをしている現状も見受けられる。

そのため、本市においては、家庭、学校、地域、民間団体等あらゆる方々が、子ども・子育て支援の重要性に関心・理解を深め、各々が協働し、役割を果たすよう推進していく必要があることから、全ての子どもが健やかに成長できる社会の実現を総合的に推進するため、石巻市子ども未来プラン（第1期）を策定していることから、丸亀市の取組について学び、本市の事業推進の参考とするため、視察を行った。

### (2) 徳島県吉野川市

#### ・花で彩る吉野川市の未来について

東日本大震災から8年2か月が経過し、復興庁が定める復興期間も残り2年を切り、復興期間終了後に本市が取り組む主要施策を現段階から検討しなければならない時期を迎えている。

吉野川市では、市長の肝いりにより若手職員が、財務省徳島財務事務所若手職員と協働でプロジェクトチームを組み、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2018（内閣府地方創生推進室主催）」に「花で彩る吉野川市の未来」というアイデアを応募し、最優秀賞「地方創生担当大臣賞」及び協賛企業賞「三菱UFJリサーチ&コンサルティング賞」に選ばれた。

同コンテストは、地域経済分析システム（RESAS）を活用して、自らの地域を分析し、地域を元気にする政策アイデアを募集するものであり、応募総数604件の応募作品の中から、グランプリを受賞したものである。

同チームはRESAS等を活用し、地域課題の解決に向けては、若年女性が活躍できる就労の場の創設及び地域経済の牽引役となり得る食料品製造業生産性向上並びに若者の6次産業化を見据えた新規就農を促す仕組みが必要であることを明らかにした。そして新たな産業創出のため、歴史及び若年女性の視点から、エディブルフラワー（食用花）に着目し、廃校を活用し、民営のエディブルフラワー工場及び商品加工・販売所等を誘致、建設し、持続的か

つ新たな社会的・経済的価値の創造を目指し、女性や若者、障害のある人、高齢者等に活躍の場を提供するとともに、既存産業とのコラボ等による経済波及効果も狙うというアイデアとして具現化に取り組んでいる。

本市においては、産業の活性化を図りながら、人口減少を阻止・克服し、市民の安全・安心な暮らしを実現するために、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、重点的に地方創生事業に取り組んでいることから、吉野川市の取組について学び、本市の事業推進の参考とするため、当該事業の内容と成果、課題について調査を行うものである。

### (3) 高知県室戸市

#### ・廃校利用（むろと廃校水族館）について

室戸市では、廃校を利用した活性化を目的に、室戸市室戸岬町にあった旧室戸市立椎名小学校（平成13年閉校、平成17年廃校）を改修し、平成30年4月26日に「むろと廃校水族館」をオープンさせている。机や椅子、本棚などは当時のまま活かしており、展示されている50種類、1,000匹以上の海の生き物は、地元漁師の定置網にかかったり、職員自ら釣ったものが大半となっている。施設概要としては、屋外プールと校舎内に設置した水槽のほか、受付、ホール、研修室、授乳室、資料展示室、理科室、図書室、家庭科教室などがあり、小学生に戻った気分で観察できる施設となっている。

来館者寄せの目玉となる飼育動物がいないにもかかわらず、開館から3か月で累計入場者数が3万人を突破し、3か月半経過した8月には初年度目標であった4万人を突破するなど、高知県内でも非常に人気のある水族館となっている。その理由としては、廃校へのノスタルジーや他の水族館では看過されがちな種類の魚介類を見ることができる点などが挙げられており、10月末には10万人を突破するなど、観光行政、交流人口の拡大などに大きく貢献している。

本市においては、東日本大震災等を起因として学校の統廃合が進んでいる状況にあることから、室戸市の取組について学び、本市の事業推進の参考とするため、視察を行った。

## 5 調査概要

### (1) 香川県丸亀市

#### [丸亀市の概要]

丸亀市は、人口11万10人。面積111.79km<sup>2</sup>で、予算規模は約400億円。財政力指数は0.71と高い数値である。高齢化率は、22.9%で、まだまだ若い世代が多いことが分かる。特産品は、うちわ、石材、骨付き鳥、讃岐うどんなどである。

#### [事業概要]

##### ■まる育サポート

- ・まる育サポート事業は、妊娠期をはじめ、子どもが0歳から18歳になるまでの子育て期「ハッピーサポート丸亀」と「あだあじお」が連携しながら支援していく事業である。

##### 1. ハッピーサポート丸亀

ひまわりセンター（丸亀市健康福祉部健康課）が窓口となって、市保健師による妊娠・出産や子育てにおけることばや栄養、こころの相談などを行っている。

##### 2. あだあじお

NPO法人グランマールが運営する「あだあじお」（子育て支援課の委託事業）による、窓口相談員（教員経験者・保育士経験者）、専門相談員（医者・大学教授・臨床心理士・学校心理士）を行っている。相談内容については、妊婦・出産・子育てに関するあらゆること。

##### ■発達障害児支援協働事業

##### ① 保護者支援

- ・発達障がいのある子どもの保護者の相談事業・・・・・・・・「すきつぶ」
- ・発達障がいと思われる子どもの保護者のための場・・・・・・・・「ほっぺ」
- ・子どもと親とのふれあいの場・・・・・・・・「はぐみくらぶ」
- ・個別相談

##### ② 保育士・教員支援

- ・セミナー、巡回カンセリング相談員との交流会などの開催
- ・保育士・教員の発達障がい児支援の勉強会・・・・・・・・「ハートサポート」
- ・巡回カウンセリング(医師、大学教授、臨床心理士など10名が保育所、小学校、中学校を巡回しアドバイス)

##### ③ 関係機関との連携

- ・行政、専門家（相談員）、関係機関（大学教授、医者、臨床心理士）、NPO、保育士、教員

#### [主な質疑]

##### Q運営主体について

Aあだあじおについては元々、発達障がいの子どもの相談窓口があり、子育てに関する悩みを相談されることが多くなったため、携わっていた専門家によって、独自にNPOを

立ち上げた。行政側が必要としていたため、委託事業となり、市役所内の建物に窓口を構えた。人材確保については、それまでの保育士等と接点があり、定年退職したエキスパートを起用しているため、安心感がある。ハッピーサポートから繋がる継続的な支援と、18歳までの子どもの多岐にわたる相談に対応している。

Q今後の課題について

A事業が市民に浸透していないことが課題である。子育てのことを相談するならあだあじおということ浸透させたい。また、他部署と連携するための協議会を立ち上げたばかりなので、機能するようにしていきたい。

## (2) 徳島県吉野川市

[吉野川市の概要]

吉野川市は、「四国四郎」で知られる吉野川中流域の拠点都市として、平成16年10月に4つの町と村が合併して誕生した。その以前は、明治22年町村が実施され、11の村になり、昭和28年には「町村合併特例法」などの施行により11の村から4つの町村になり、こうした多くの歴史をもとに「世代を超えて夢紡ぐまち」を理念に。旧4町村の持つ伝統、文化を引き継ぎ、美しいふるさとを守り育てています。

[事業概要]

### ■花で彩る吉野川市の未来について

吉野川市役所&財務省徳島財務事務所若手プロジェクトチームによる「花で彩る吉野川市の未来」が内閣府が主催する「地方創生★政策アイデアコンテスト2018」において最優秀賞「地方創生担当大臣賞」を受賞。

- ・コンセプト 人口約4万人の自然豊かなまち  
地区ごとのゆかりの花を産業等への活用  
(全国初の梅酒特区に選ばれた美郷の梅や大正時代から歴史ある大菊人形展など)

### ・RESAS等により把握した課題

- ① 若年女性人口の減少と合計特殊出生率の低さ
  - ・課題解決のキードライバーは、雇用創出
- ② 食料品製造業の生産性と給与の低さ
  - ・地域経済の牽引役と成り得る食料品製造業を、6次産業化等により生産産業化することが重要
- ③ 若者の新規就農者の減少
  - ・稼げる農業への転換するスキームが必要

・エディブルフラワー（食用花）に着目

- ① パンジーなどの花を料理やスイーツに利用
- ② 注目度の向上に合わせ、市場拡大の可能性
  - ・ ・ 認知・注目度向上中！市場拡大が想定される

・キーとなるスタートアップ企業の存在

- ① LEDを活用した閉鎖型植物工場で栽培
- ② 柔軟な働き方が可能な植物工場の魅力
  - ・ ・ 柔軟な働き方が可能で、子育て・介護中の人や障がいがある人の雇用先と成り得る
  - (例) OHGETS オーゲツ株式会社

・EEC（エディブルフラワー・エコシステム・チャレンジ）

- ① 廃校にエディブルフラワー栽培工場を誘致
- ② 商品加工・販売所等の6次産業化を目指す
  - ・ ・ 多様な主体が活躍できる雇用の場を創出。自走可能な施設を目指す。

・EEC実現に向けたファイナンス

- ① 事業者選定には、地域活性化の観点を重視
- ② 事業性評価融資やクラウドファンディングを活用

・フレームワークを活用したマーケティング戦略

- ① 戦略の実行により、吉野川ブランドの構築へ
- ② 地元企業とのコラボや情報発信が重要・ ・ 4P分析

PRODUCT	製品
PRICE	価格
PLACE	流通
PROMOTION	プロモーション

・共創で、地域共通価格を創造

- ① EECが核となる共創で、価格創造や課題解決
- ② 各主体が連携するオープンイノベーションを構築

・共創☆吉野川市地域経済エコシステム

- ① 財務局がそのネットワークを活用し「つなぎ役」に
- ② 相互補完関係を構築し、多面的に連携・共創
  - ・ ・ 吉野川市と四国財務局が連携協定締結

- ・ E E Cが目指す吉野川市の未来
- ・ E E Cで「世代を超えて夢紡ぐまち」へ

### (3) 高知県室戸市

#### [室戸市の概要]

高知県室戸市、むろと廃校水族館 3 階会議室にて、室戸ジオパーク推進協議会事務局次長・室戸市観光ジオパーク推進課課長補佐堺様、むろと廃校水族館館長若月様から「廃校利用（むろと廃校水族館）について」ご説明をいただいた。

室戸市は、高知県の東南部に位置する。面積は 2 4 8 . 1 8 km<sup>2</sup>、人口 1 3 , 2 1 8 人（平成 3 1 年 3 月 3 1 日現在）。太平洋に突き出した室戸岬があり、水産業とホエールウォッチングで知られ、近年では海洋深層水で知られる。夏から秋にかけては台風の通過が多く、台風銀座と呼ばれるところの一つである。基幹産業の水産業の衰退、人口流出等による過疎化が進行しており、人口は高知県内 1 1 市で最も少なく、北海道以外で人口の最も少ない市である。また、全域が室戸ユネスコ世界ジオパークである。

#### [事業概要]

- ・ 廃校利用（むろと廃校水族館）について

平成 3 0 年 4 月 2 6 日、廃校を利用した活性化を目的に、室戸市室戸岬にあった旧室戸市立椎名小学校（平成 1 7 年度廃校）を改修し、「むろと廃校水族館」をオープンさせた。

施設では学校の机や椅子、本棚などはそのまま活かしており、展示されている 5 0 種類、1 , 0 0 0 匹以上の海の生き物は、地元漁師の定置網にかかったり、職員自ら釣ったものが大半となっているなど、徹底したローコストで運営を行っている。野外プールと校舎内に設置したプールの他、受付、ホール、研修室、授乳室、資料展示室、理科室、図書室、家庭科教室などがあり、小学生に戻った気分で観察できる施設となっている。

イルカや海獣等、来館者寄せの目玉となる飼育動物がないにもかかわらず、開館から 3 カ月半経過した 8 月には初年度目標であった 4 万人を超えるなど、高知県内でも非常に人気のある水族館となっている。その理由としては、廃校のノスタルジーや他の水族館では看過されがちな種類の魚介類を見ることができる点などが挙げられており、開館から 1 年で約 1 8 万人の人が訪れるなど、廃校を利用して観光行政、交流人口の拡大などに大きく貢献している施設である。

#### [施設概要]

- 室戸の海域に生息・漁獲される海洋生物の飼育、展示、研究。
- 総事業費 約 5 億 5 千万円（国庫補助 1 億 9 千万円、県補助 4 千 5 百万円）
- 指定管理者「N P O 法人 日本ウミガメ協議会」 ○指定管理料 0 円

## 6 所 感

### (1) 香川県丸亀市

#### ・まる育サポートについて

妊娠期から子育てに関する保健・福祉・医療の切れ目のない相談事業は、新しい取り組みであり、各課・教育委員会・学校・福祉事業機関・地域の支援者との連携など手厚いサポート体制となっている。祖父母と離れて暮らす若い夫婦にとっては、不安なく子育てすることができ、子育てをする環境としてはすばらしい環境といえる。

特に、孤立しがちな発達障がいの子どもの持つ保護者にとっては、相談から勉強会まで心強い支援体制であると感じた。

本市においても、人口減少は喫緊の課題であり子どもを安心して生み育てる環境づくりが必要である。妊娠から乳幼児までは健康部、保育は福祉部、教育は教育委員会など、それぞれで事業を行っていることから、もっと包括的になんでも相談できるような相談しやすい窓口が必要であると感じた。

### (2) 徳島県吉野川市

#### ・花で彩る吉野川市の未来について

吉野川市の若手職員が国のRESAS（地域経済分析システム）を活用した地域課題の解決として、若年女性が活躍できる就労場の創設及び地域経済のけん引役となりうる地場産業を育てる仕組みが必要であることを分析した内容であった。

地域特性に合った産業の創出を、地域を知る市役所職員と、データに基づいた現状分析が得意な財務局職員が協働して政策アイデアを作り出すなど、国を巻き込んだすばらしい事例であると感じた。

実現に向けては市場の創出への課題が多いと思うが、組織間の連携のため、吉野川市と四国財務局だけでなく、民間企業や地元大学との連携など、未来に向けた成果が期待できるのではないかと感じた。

### (3) 高知県室戸市

#### ・廃校利用（むろと廃校水族館）について

廃校の利用については、震災により加速した少子化地域や、統合により使わなくなった学校の利活用のため、本市でも考えていかなければならない。

そのなかで、今回視察したむろと廃校水族館については、廃校の利用をしたい室戸市とウミガメの実態調査のため標本の保管場所を確保したいNPO法人日本ウミガメ協議会の互いの利害の一致による好例である。

徹底して効率化し、魚は地元から無料で仕入れ、維持管理のかかる飼育困難魚種や海獣などは扱わず、広告も無料で利用できるSNSのみ。また、学校であることを生かした利活用、ランドセル型の商品や廃校グッズの作成など、収益体制が整っており、指定管理料

も無償で管理できているとのことから、かなりの成功事例であると言える。

本市においても廃校を、目的をもって管理する団体を探すのが一番の問題であるかとは思いますが、せっきくの施設をただ廃墟とするだけでなく、さまざまな使い道を考えていく必要がある。

## 7 調査による石巻市への政策提言等

### (1) 香川県丸亀市

#### ・まる育サポートについて

昨今の幼児虐待などの痛ましい事件がニュースになるなか、本市においても、子どもをめぐる問題は多様化・複雑化している状況であり、少子高齢化が進む一方、人口が減り、世帯数が増えるなど、核家族の進行と震災後の地域コミュニティの崩壊が深刻な問題となっている。

現在建設している包括支援センターは、妊婦、出産前後、子育ての各ステージに応じ、助産婦や保健師などの専門職が、相談支援や助言・指導、情報提供などで母子をサポート。保育所などの子育て支援機関や医療機関との連携の軸となる役割を担うと思うことから、この丸亀市などの先進地の取組みを参考に、石巻の地域特性にあった支援や、教育までの切れ目のない支援が行われるように提言していく。

### (2) 徳島県吉野川市

#### ・花で彩る吉野川市の未来について

吉野川市については、若手職員らによるプロジェクトチームの活動状況による組織の活性化について大いに参考になった。

地元の職員と国の職員でその知識を生かし、協働することにより新たな政策を作り出すという取り組みは震災後さまざまな職員派遣を受けている本市においてももっと積極的にプロジェクトチームなどを立ち上げて検討すべきだと思われる。

職員からの政策アイデアが出しやすくなるような仕組みづくりについて、提言していく。

### (3) 高知県室戸市

#### ・廃校利用（むろと廃校水族館）について

むろと廃校水族館では、近くに鉄道の駅もなく、高速道路も通っていない。何も無い場所に人を集め、廃校施設活用の成功モデルを作り上げている。

高い集客力は周辺観光施設にも波及しており、飲食店などにも影響しているとのことであった。また、水族館の職員として働く女性が地元の漁師と結婚するなど、さまざまな波及効果が生まれているとのことであった。

また、初期費用以降は指定管理料もなく、維持管理も含め民間のアイデアによる運営が

なされており、本市としても見習うべき点が多いと感じた。

本市においては、今後人口減少、ひいては少子化が進む中、学校の統廃合は避けられないため、室戸市の取組を参考に本市でも同様な取組ができないか提言していく。

8 調査経費 104,794円

9 添付書類 別添資料のとおり